

# 豊橋産農産物ふんだんに

## 「百農人井」移動販売へ取り組み始動

豊橋産農産物をふんだんに使った新メニューを、移動販売車で売るという取り組みが始まろうとしている。メニューは一見、少し高めの価格設定のようにも感じられる。その背景には、手間をかけて生産した地元農産物を「適正価格」で買ってもらいたいとの思いがあるようだ。



緊急雇用創出事業として、豊橋市がコンサルティング業の「都デザイン」(豊橋市西幸町)に業務委託した。市内の若手農家らでつくる「豊橋百農人」などの協力を得て、地元産農産物をふんだんに使った新メニューで売り込みを図ることになった。

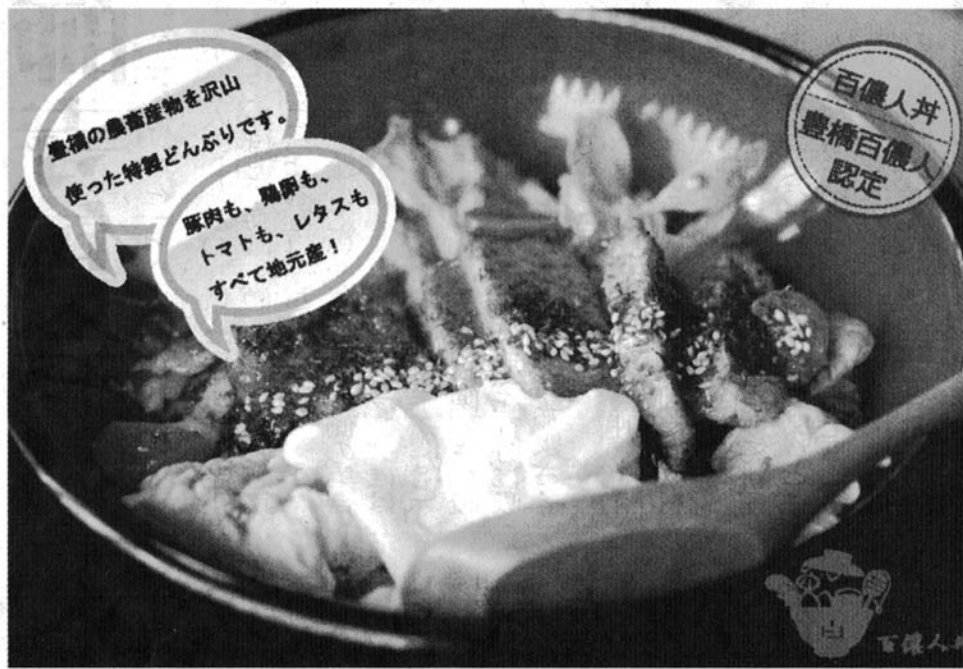
移動販売の最初の一品として考案された「百農人丼」は、コメや豚肉、卵やレタスなど食材のほぼすべてが豊橋産。価格は800円。

### 生産者の手間暇を価格に反映

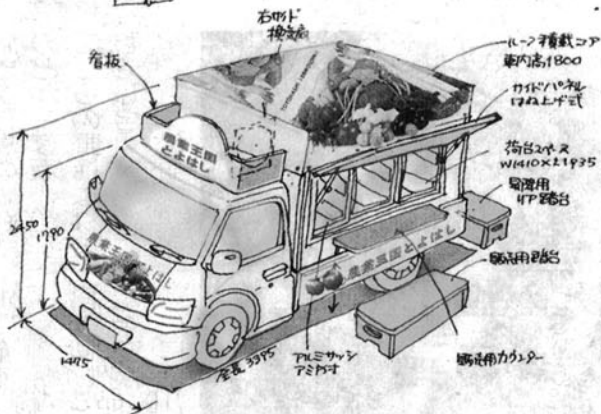
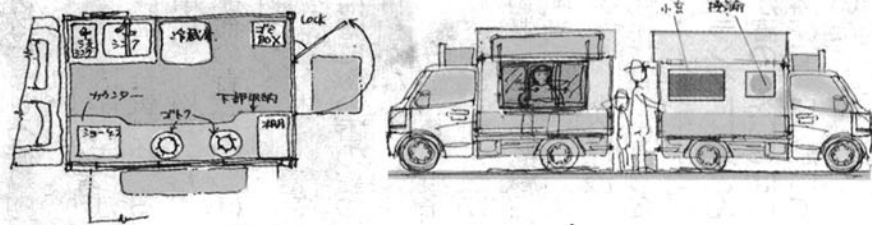
「井」に続くメニューには「百農人むすび」がある。まだ試作段階だが、さまざまな地元産の食べ物を食材に取り入れて、新ブランドにしたいと関係者はもくろむ。1個200〜300円程度になる見通し。

値段はいずれも少し高めに感じられる。しかし実は、これが「適正価格」という考え方も一方にはある。背景にあるのはデフレの影響だ。物価上昇を目指し、一定の成果を上げているとされる安倍政権の経済政策。しかし、これまで農産物はデフレ下で価格競争にさらされてきた。今でも価格が不当に安く抑えられているとの懸念は拭いきれない。

例えばスーパーマーケットの入り口に置かれた野菜類は、客への印象を良くするために価格を抑えて表示されることがあるという。もちろんそうした結果は生産者に跳ね返ってくる。こだわりを持った生産者がせっかく手間暇かけて農産物を作っても、それが価格に反映されないと労働意欲を削ぐことにもなりかねない。百農人丼などの一



百農人丼



※ラッピングはイメージです。

豊橋百農人キッチンカー  
TOYOHASHI 100NOUJIN

#### 移動販売車のイメージ図

見「強気」にも思える価格設定は、実は経費を上乗せした当たり前の値段と言えるかもしれない。

移動販売車のお披露目は、16日に豊橋市神野ふ頭町のカモメリア周辺で開かれる「第1回ええじゃないか豊橋サイクルフェスティバル」の会場。とりあえず百農人丼を販売する。

その後は品数を増やしつつ、東三河を中心に各種イベント会場やスーパーの駐車場などに出没する予定だ。出店スケジュールなどの問い合わせは、都デザインへ電話0532(48)59800へ。